

1. 趣旨

- ・ 会員相互の交流・親睦を図るための定例昼食会。

2. 活動内容

- ・ 平成 18 年 2 月第 1 回開催。
- ・ 開催日時：毎月第 3 金曜日 10:30～12:30 開催場所：茶寮「いの上」
- ・ 会員（またはそれに準ずる人）の中から自薦他薦で選ばれた話題提供者によるスピーチ（約 1 時間）、その後昼食をとりつつ質疑応答、意見交換を行なう。
- ・ 毎回全会員に案内し、希望者が参加。食事代 1200 円。

3. 活動実績

回	月日	演 題	話題提供者	参加 (名)
平成 18 年 (2006 年)				
1	2.17	神の国に近い島・沖縄-	若杉忠男 (36 理)	20
2	3.17	トロンとは何か	山口義人 (32 法)	22
3	4.21	鎌倉の梵鐘 併催：故井上禅定名誉会長を偲んで録音聴取	猪熊紀彦 (40 経)	25
4	5.19	北京-昔と今-	春名 徹 (34 文)	20
5	6.16	現下の日本の法制度	及川信夫 (30 法)	14
6	7.21	鎌倉時代の女たち	菱沼義明 (32 法)	22
7	8.18	歴史教科書問題	長谷川信夫 (32 法)	25
8	9.15	地球環境を壊さないで食糧問題を解決する	新村正純 (36 農)	19
9	10.20	和製ミサイル事始め・戦時研究の思い出-	廣田 豊 (17 工)	16
10	11.17	東大生とこれからの教育	田丸謙二 (21 理)	21
11	12.15	もと外交官のひとりごと	溝口道郎 (27 法)	27
平成 19 年 (2007 年)				
12	1.19	ある居士の参禅風景	瀧川謙司 (39 法)	27
13	2.16	民事調停あれこれ	車 信弘 (37 法)	22
14	3.16	母系空海論	小林良彰 (31 文)	30
15	4.20	世界鉄鋼業に於ける統合再編状況	坂元節夫 (28 経)	24
16	5.18	シベリア抑留 11 年	林 利雄 (19 法)	39
17	6.15	梶原景時“善玉”論	佐藤治夫 (35 農)	29
18	7.20	熱帯林の現状と保全	鈴木 進 (35 農)	28
19	8.17	実際のイスラム教徒たち-日本でのイメージから考える-	大川玲子(H06 文)	40
20	9.21	開発現場から見たデジタル革命の進展	大西 勲 (39 工)	32
21	10.19	生体内のエネルギー-経済学	神谷 瞭 (39 医)	27
22	11.16	メキシコ雑話	江口勝也 (33 法)	31

23	12.21	ビールよもやま話	望月 湛 (36 農)	29
平成 20 年 (2008 年)				
24	1.18	石油が無くなったらどうするの	井上文彦 (32 法)	35
25	2.15	能とオペラと歌舞伎	渡水隆史 (38 農)	29
26	3.21	ICT の変遷とネットワーク社会の到来	飯川昭一 (39 工)	26
27	4.18	僕の旅日記	安藤義信 (33 法)	24
28	5.16	留学生事情	太田雄一郎 (40 経)	20
29	6.20	出版社生活 30 余年	池戸誠二郎 (41 文)	28
30	7.18	石炭産業の終焉 最後に残った炭鉱で	神戸 潔 (31 法)	33
31	8.19	Once a dealer, always a dealer -外国為替市場の 37 年-	田中一光 (39 法)	28
32	9.19	2030 年のクルマとその技術課題	廣田幸嗣 (44 工)	31
33	10.17	住宅用太陽光発電システムの紹介	蜂巢 毅 (39 工)	21
34	11.21	ISO とときどき原子力	井出 朗 (36 工)	27
35	12.19	囲碁と私	松浦英司 (32 法)	25
平成 21 年 (2009 年)				
36	1.16	放射線ホルミシス ラドン温浴体験 3 年間	竹内哲夫 (31 工)	27
37	2.20	分かり合うのは難しい	坂本研一 (36 工)	30
38	3.20	地球環境とエネルギー問題を考える	沢田芳夫 (35 工)	23
39	4.17	ザイールに暮らして -昔々のアフリカ滞在記-	高橋雅博 (40 文)	32
40	5.15	鎌倉広町の森はかくて守られた -25 年の市民運動-	安倍精一 (37 経)	31
41	6.19	人参の効き目について	山崎和男 (38 薬)	31
42	7.17	何故女性はフランス国王になれなかったのか	日垣凡之 (37 法)	30
43	8.21	パナマ運河の歴史と現況	吉田方明 (28 工)	36
44	9.18	海洋冒険小説 (帆船物語) の楽しみ	立松 修 (39 経)	36
45	10.16	東大野球部は優勝できるか	杉山守久 (39 農)	29
46	11.20	ある地球観測衛星との数年間	吉田和彦 (36 工)	32
47	12.18	長崎学	山口義人 (32 法)	32
平成 22 年 (2010 年)				
48	1.15	道元語録考	工藤 康 (工 28)	28
49	2.19	日本煙突物語	梅田健次郎 (19 工)	34
50	3.19	時代に寄り添った塗料	蔵野亘弘 (30 工)	36
51	4.16	企業の広報と宣伝	齊藤達二 (35 経)	34
52	5.21	眼球運動や乗り物酔いの話	安井湘三 (38 工)	34
53	6.18	ガンと一緒に山登り	庵 幸雄 (37 工)	36
54	7.16	新エネルギーの将来	井上文彦 (32 法)	41
55	8.20	シベリア抑留 11 年 (アンコールに込めて)	林 利雄 (19 法)	42
56	9.17	フランス、17 世紀、ルイ XIV の従妹とローザン公の物語	小椋順子 (42 人科研)	34

57	10.15	電気自動車の話	廣田幸嗣 (44 工)	38
58	11.19	Badminton と運動会バドミントン部	鈴木明夫 (41 農)	27
59	12.17	鎌倉日仏協会のこと	佐野昭三 (28 経)	32
平成 23 年 (2011 年)				
60	1.21	ゲーテさまざま	和田孝三 (36 法)	39
61	2.18	謡曲を習って 8 年	渡水隆史 (38 法)	26
62	3.18	(東日本大震災のため中止)	—	—
63	4.15	ヤマアジサイのこと	太田哲英 (34 農)	32
64	5.20	ヒマラヤ・トレッキング顛末	松尾勇二 (39 工)	33
65	6.17	セニプラ (ブラジルのユーカリ・パルプ会社) の話	斎藤 潔 (36 工)	31
66	7.15	ライフサイエンスの近況 -ゲノム科学 10 年の進展と今後-	八尾 徹 (33 工) *	35
67	8.19	私の鎌倉掃苔録	岩谷久生 (34 法)	36
68	9.16	漢詩あれこれ	高津有二 (40 法)	40
69	10.21	ゲーテさまざま その 2	和田孝三 (36 法)	40
70	11.18	X 線 CT の原理	神谷 瞭 (39 医)	38
71	12.16	仏像を彫ってみませんか?	鈴木庸夫 (42 文)	34
平成 24 年 (2012 年)				
72	1.20	生きるとはどういうことか?	若杉忠男 (36 理)	32
73	2.17	自然大災害による損害と保険	谷口正美 (35 法)	31
74	3.16	切手でたどる衛星通信	倉藤 康 (41 工)	29
75	4.20	相続税の改正について	土田建二 (36 文)	33
76	5.18	エネルギー問題に関する意見の分裂の収れんを求めて	一原嘉昭 (35 工)	37
77	6.15	脳の部品	芳賀達也 (38 理)	35
78	7.20	日本の教育の現状	山口義人 (32 法)	29
79	8.17	家庭菜園の楽しみ方	田淵謹也 (39 工)	26
80	9.21	フクシマの帰着にむけ エネルギーと放射能問題	竹内哲夫 (31 工)	41
81	10.19	発癌メカニズムと放射線	杉本正信 (41 薬)	43
82	11.16	青函トンネル裏話	河辺公一 (33 工)	42
83	12.21	激変するミャンマー情勢の実相	山口洋一 (35 養)	40
平成 25 年 (2013 年)				
84	1.18	複神論仮説：集団は理性を失う。民主主義は幻想？	若杉忠男 (36 理)	35
85	2.15	香りから見た世界の歴史	相良嘉美 (38 文)	35
86	3.15	電子計算機の誕生とその後	窪田芳夫 (29 工)	33
87	4.19	現代の蔵書票の動向 -第 34 回世界書票会議に参加して	羽田壽夫 (38 工) *	29
88	5.17	激動する世界の中の日本・中国・日中関係を考える	小田川圭甫 (37 法)	44

※ 氏名の右に* 印のある講演者は神奈川県立総合研究センター会員



第 16 回 (H19.5.18) 演者：故 林 利雄氏



第 19 回 (H19.8.17) 演者：大川玲子氏



第 27 回 (H20.4.18) 演者：安藤義信氏



第 86 回 (H25.3.15) 演者：窪田芳夫氏

***** ひとこと *****

❖ 三金会参加者を代表して、出席率の高いお二方からのコメント

坂本研一さん：鎌倉淡青会に入会して程なくの頃に三金会が始まったこともあって、結構頻繁に出席しています。会員はそれぞれの分野で活躍して来られた方々なので、どなたの話も知的刺激を受け大変興味深く聴いています。あるとき、幹事から「お前も何か話せ」とのご指示が有り、学士会の講演で聴いた脳の専門分野の方の話を自分の世界でどう受け止めたかという視点から私の考えを披露させていただいたことがありました。こういう視点からも皆様の考えを伺いたいと考えています。

小椋順子さん：月に1回お話を伺ってご一緒にお食事をする第3金曜日が最近では待たれるようになりました。私は昔からなかなか顔と名前が覚えられず学生達に笑われたほどですが、最近では淡青会に少しずつお馴染みの方もできました。ずっとフランス文学だけの世界にいて知らないことが山ほどありますので、色々学ばせて頂いています。今後も楽しみにしております。

❖ 幹事から一言：吉田和彦さんから幹事を引き継いで早くも3年半経ちました。長谷川・太田両副会長、吉田代表幹事をはじめ皆様のご支援を得て、盛会裡に続いております。プロジェクター、スクリーン、暗幕等の小道具も揃い、かなり充実した会になってきました。しかし、充実した理由は何と言っても提供される話題とその後の活発な議論にあると思います。話題は演者の専門分野、豊富な人生経験、趣味、ユニークな意見や主張などグローバルで多岐にわたっています。これからも知的興奮を誘う話題の種は尽きないものと期待しています。(新村正純)
